

闘 春**2008年****反動の嵐に抗して！労働者として共に未来を切り開こう！**

JR東海労新幹線関西地本執行委員長 船出 信政

組合員、家族、OBの皆さん新年あけましておめでとうございます。昨年は職場から、家庭からJR東海労運動を支えていただき、ありがとうございます。本年も昨年同様よろしくお願いします。

昨年を振り返るならば、あっという間の一年でした。07年年末世相を表す漢字に「偽」が選ばれました。食品の産地や賞味期限の改ざん、派遣会社の偽装請負など相次いで発覚したというのが理由です。清水寺・森貫主は「このような字が選ばれるのは恥ずかしい。自分の心を律する気持ちを取り戻してほしい」とコメントしています。

いま世界はまさに、「新自由主義」に基づくグローバル化が進行し、米国中心主義による世界支配戦略のもとで各地で戦闘が行われ、さらには環境破壊・地球温暖化によって多くの犠牲者が出ています。この地球温暖化問題は全世界的な問題として議論されていますが、先進国の利害のもと解決に至っていません。

また国内を見れば、「美しい国づくり」を標榜して登場した安倍内閣が、防衛庁から防衛省への昇格や憲法改悪を行うための国民投票法、愛国心教育を推進する教育基本法の改正など、「日本を戦争のできる国づくり」へと、この一年間でつくり上げてきました。しかし、相次ぐ閣僚の不祥事、参議院選の大敗などにより退陣を余儀なくされました。そして安部内閣を引き継いだ緊急避難的に登場した福田内閣は、「穏健派」を装いながら国民を欺き、「前内閣の約束事」としてテロ対策特別措置法失効にともなう補給支援特措法案の成立に躍起となっています。こうした世界、国内を見ても権力者による「偽」によって多くの国民が犠牲になっています。

ウラ面へ

「怒」。この漢字が物語っている一年でした。

退陣した安倍内閣のブレーンと言われるJR東海葛西会長は、国家公安委員、教育再生会議委員、憲法改正解釈有識者会議、年金業務社会保険庁監視員など、改憲・「美しい国づくり」の一翼を担ってきました。JR東海会社においては、社員への「規律と忠誠心」を徹底的にたたき込み、「命令と服従」の社員管理を推し進めています。その結果、本人の意思を無視した人事異動や管理者によるセクハラ、パワハラにより退職する若年社員。会社のビルからの飛び降りや自社の看板商品で自らの命を絶つという痛ましい事態も発生しました。これらはJR東海会社に対するメッセージと言えます。そして、当たり前前の労働運動を進めてきた私たちJR東海労を「テロリスト集団」とキャンペーンし、労働組合としての存在すらも否定してきたのです。

昨年1月、ホームページで労務管理の「シナリオ」が暴露されて以降、会社は警察権力と一体となって「窃盗事件」をでっち上げ、検察が起訴していないにもかかわらず「内部文書を窃取した」として9月27日、名古屋地本・加藤誠二さんを「懲戒解雇」したのです。また、8月30日には、7月17日の第一審判決を受けJR東日本会社は美世志会に対して「懲戒解雇」を通告しました。まさにこうした攻撃の本質には、「職場での労働運動を許さない」という資本の論理を貫徹するために、国鉄改革20年を経た現在、JRから労働運動を抹殺する狙いがあると言えます。

私たちは「仲間が首を切られて黙ってられるか！」を合い言葉に、加藤誠二さんへの「解雇処分」撤回に向け、11月4日始業時から終了時まで、名古屋地本19名の仲間がストライキに決起しました。また、10月、11月、「主任レポート」反対の闘いを全職場から創り出してきました。今後も、加藤誠二さんへの不当解雇撤回・早期職場復帰と、美世志会への不当判決・不当解雇撤回に向けた闘いを創り出していこうではありませんか。

昨年5月23日、大阪府労働委員会は、職場内における労働組合のビラ配布行動への会社介入に対して、不当労働行為の救済命令を下しました。さらには、5月30日、8月28日、東京高裁は一方的掲示撤去に対して不当労働行為の認定を下しました。この救済命令・判決は、JR東海の労使紛争にとどまらず、経営側による労働組合活動への介入を抑制するという画期的な命令・判決でありました。私たちのこの間のJR東海労運動の正しさが社会的にも認められたということです。

昨年新幹線地本において鈴木一幸さんが東海労に加入しました。さらに、鈴木一幸さんをはじめJR東海労運動への共感をしめすユニオン組合員も存在しているもの事実です。反動の嵐に抗して、安全確立、人権と平和を守り、労働者として未来を切り開くために自信と確信を持って、正々堂々とこの一年間JR東海労の運動を進めていこうではありませんか。